



<フィリピン・リサーチ・レポート>

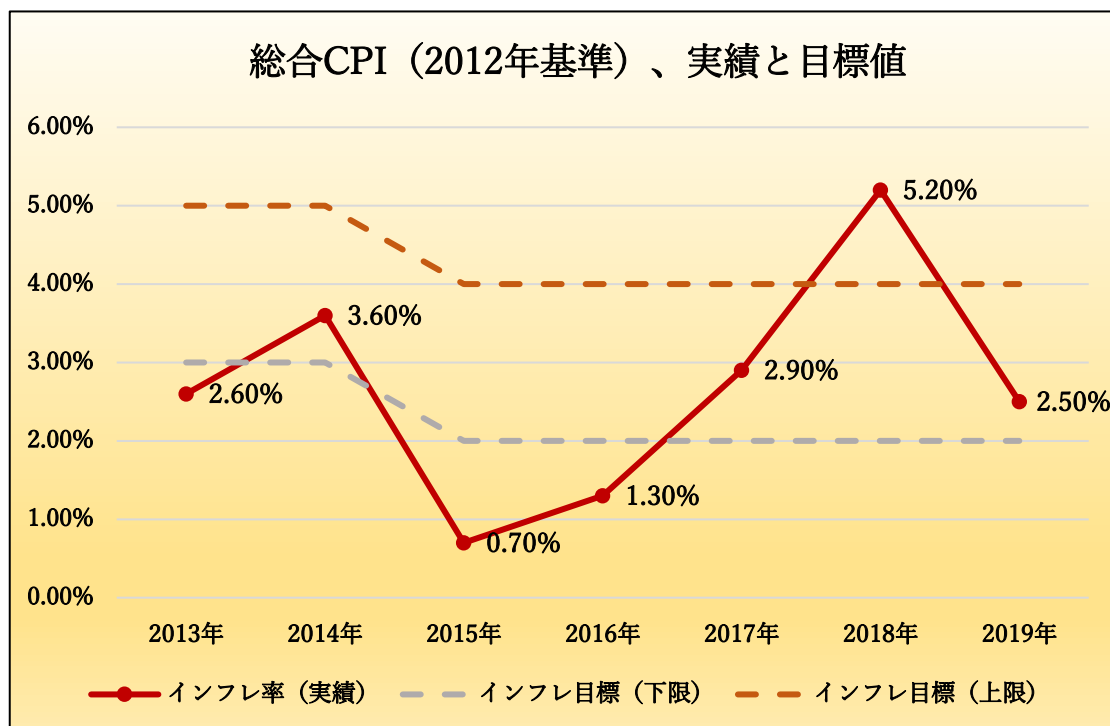
情報提供用資料

2020年1月9日

フィリピンの平均インフレ率 3年振りの低水準

フィリピン統計庁(PSA)によると、2019年12月の総合インフレ率(2012年基準)は2.5%(速報値)となり、前月から1.2ポイント上昇し、6カ月ぶりの高水準だったが、フィリピン中央銀行(BSP)の予想(+1.8%~+2.6%)の範囲内には収まった。物価指数構成比の約4割を占める食品・非アルコール飲料の物価上昇率が+1.7%と前月の+0.0%から上昇したことが主な理由である。

2019年の平均総合インフレ率は+2.5%で、政府の目標圏内(+2%~+4%)に収まった。前年の+5.2%からは大幅に鈍化し、16年の+1.3%以来3年ぶりの低水準となった。食品の平均インフレ率が前年の+6.6%から+1.8%へと急鈍化したことなどが寄与した。



出所:PSA、BSP のデータを基にキャピタル アセットマネジメントで作成

以上